

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル 1：平常）が継続＞

13日未明から規模の小さな火山性地震が増加しています。その他のデータには特段の異常は認められません。

十勝岳では、直ちに噴火に至る兆候は認められませんが、ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量および地震回数の増加、火山性微動の発生、発光現象などが観測されており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。十勝岳は活火山であることに留意してください。

○活動概況

13日未明から規模の小さな火山性地震が増加しています。（図 3～5）

震源は概ね62-2火口付近の浅いところと推定されます。（図 4）

なお、この地震活動に前後して火山性微動は発生しておらず、遠望カメラによる監視では、62-2火口及び大正火口の状況に特段の変化は認められません。（図 2）

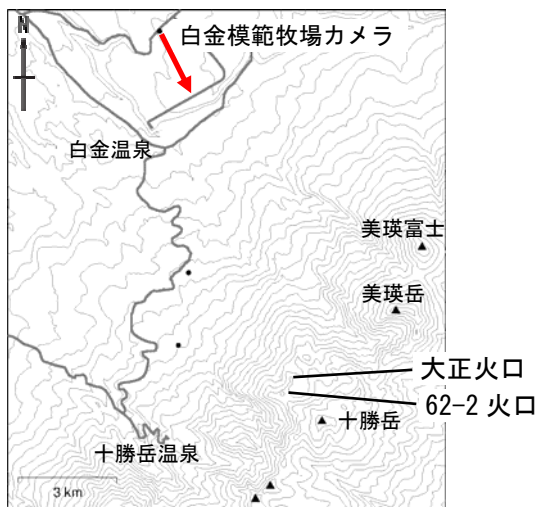


図 1 十勝岳 遠望カメラ位置
及び撮影方向（赤矢印）



図 2 十勝岳 北西側から見た山頂の状況
（5月13日15時 図1の矢印方向より撮影）
・なお、5月13日19時以降は雲のため不明です

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>) や気象庁のホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、北海道及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

5 月 13 日

00 時 00 分

03 時 00 分

06 時 00 分

09 時 00 分

12 時 00 分

15 時 00 分

18 時 00 分

21 時 00 分

5 月 14 日

00 時 00 分

03 時 00 分

06 時 00 分

06時12分宮城県沖の地震波形

点検

2 μ m

1 分

図 3 十勝岳 火山性地震の発生状況（5 月 13 日 00 時～14 日 09 時）

- ・避難小屋東（活動火口に近い観測点）による変位波形
- 地震回数：13 日 106 回、14 日 00 時～09 時まで 37 回（暫定値）
- ・主な火山性地震を青四角で示します

震央分布

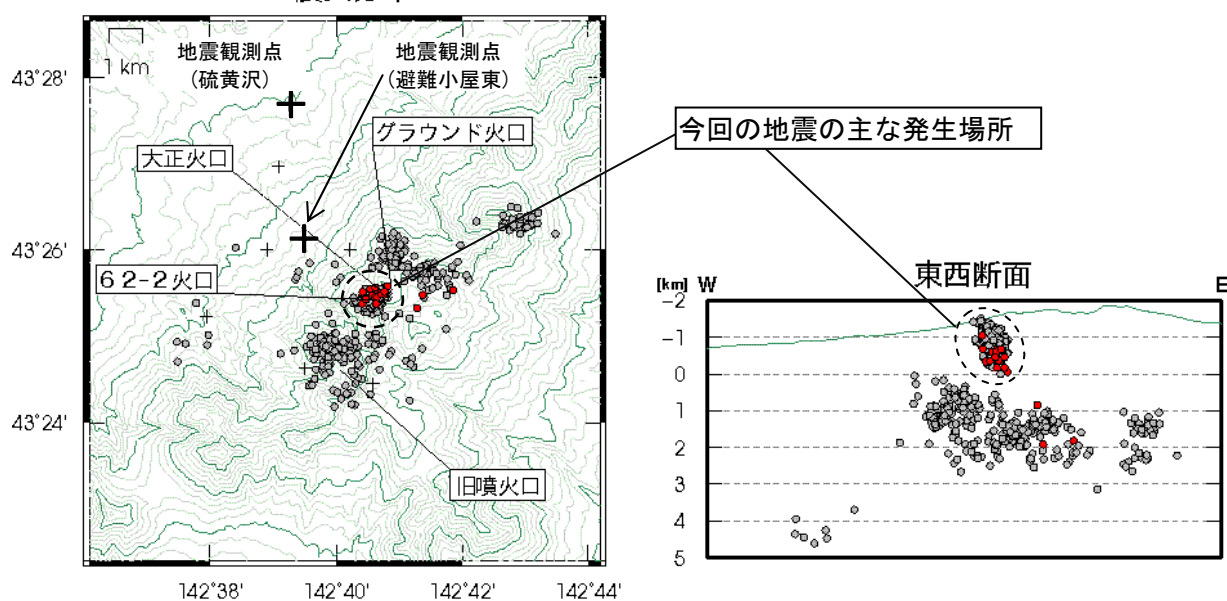
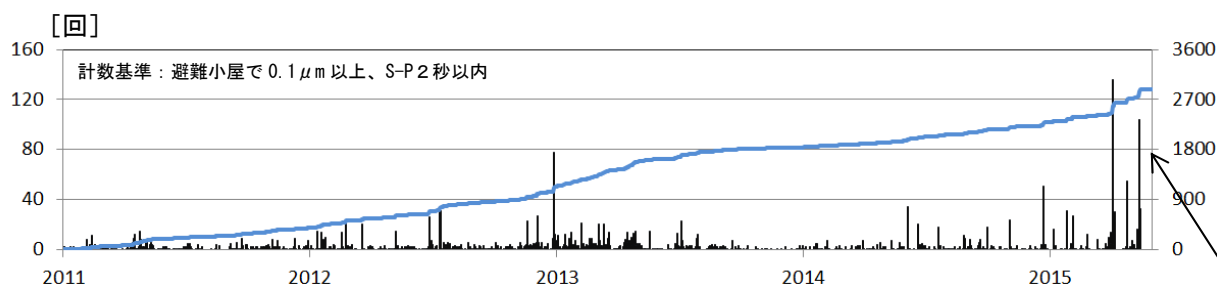


図 4 十勝岳 震央分布図（暫定値）

- 印：2013 年 1 月～2015 年 5 月 12 日の震源
- 印：2015 年 5 月 13 日～14 日 06 時までの震源

① 避難小屋（活動火口に近い観測点）62-2 火口付近のごく浅い所の地震 日回数および積算回数



② 硫黄沢（山麓の観測点）における 62-2 火口付近のごく浅い所の地震 日回数および積算回数

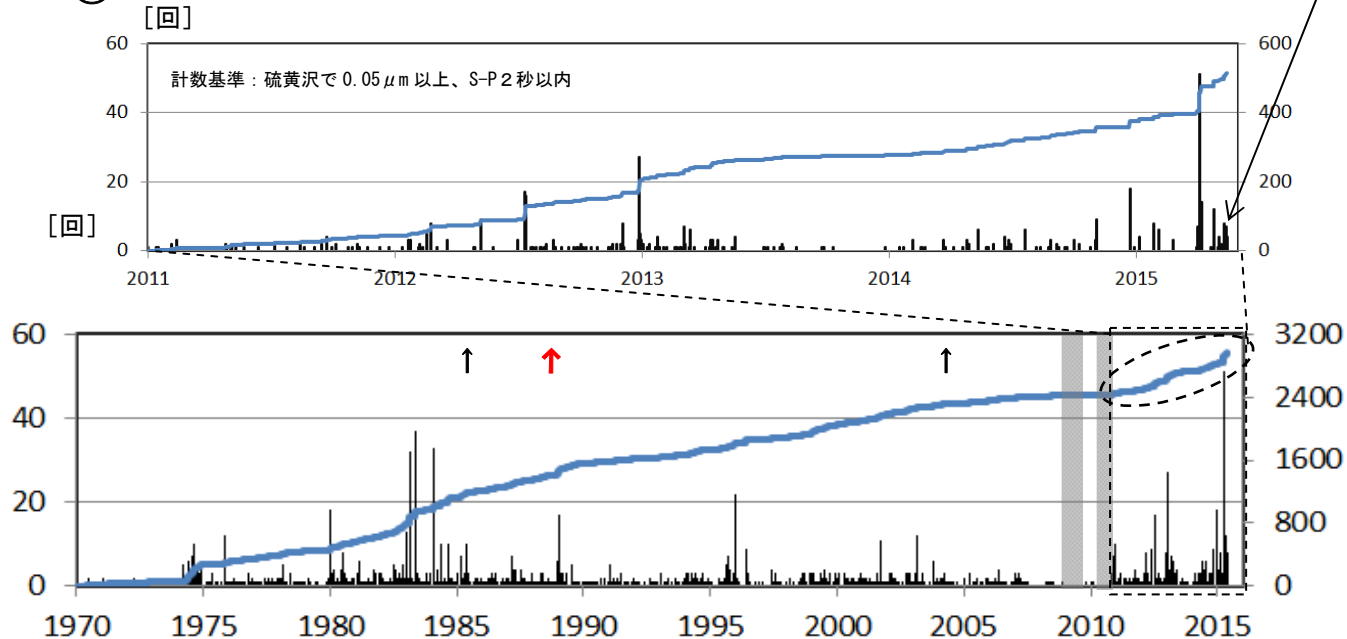


図 5 十勝岳 発生場所別の火山性地震の日回数及び積算回数推移（1970年～2015年5月14日09時）

- ・①は避難小屋東（活動火口に近い観測点）で計測した回数を示しています
（計数基準：0.1 μ m 以上、S-P 2 秒以内）
- ・②は硫黄沢（山麓点）で計測した回数を示しています
（計数基準：0.05 μ m 以上、S-P 2 秒以内）
- ・青線は積算回数を示します
- ・↑は水蒸気噴火、↑はマグマ噴火の発生を示します
- ・図の灰色の部分は欠測を示しています
- ・62-2火口付近のごく浅い所の地震は、2010年頃からやや多い状態となっています
（②の楕円破線部）